

17 集落 1 農場の共同営農と多彩な 交流活動で活気ある地域づくり

— 地域社会の振興機能 —

農事組合法人 おおひごう 大肥郷ふるさと農業振興会



大明地区のほ場整備竣工記念碑(上)と水田風景(下)

大明地区は、日田市西部を流れる大肥川沿いの 17 集落にまたがり細長く広がる水田地帯で、ほ場整備事業（平成 9～18 年）により大区画化を図り、これを契機として、平成 15 年度に共同営農を行う「大肥郷ふるさと農業振興会」を設立した。

振興会は、個人経営農家とのすみ分けを行い、ほ場整備を行った農地 96ha のうち 40ha（農家数 136 戸／平成 29 年現在）に利用権を設定し、共同営農方式で米・麦・大豆を主体に生産している。

また、年間を通じて多彩な交流イベント、農業体験学習などを行っているほか、自ら生産した農産物を使い、地産地消、安全にこだわった味噌づくりを手掛けるなど、かつては高齢化等により耕作放棄地が増加しつつあった地域に活気を呼び戻している。



大分県日田市



「ももは工房」での味噌づくりの様子



こだわりの味噌

〔地域社会の振興、体験学習と教育〕

振興会の共同営農部会が主体となり、麦踏み大会、一般向けの農業体験塾、小学校農業体験学習など、年間を通じて様々なイベントを開催しており、2月の「麦踏み大会」は、参加者が例年 300 人を超える大きなイベントとなっている。

また、農産加工部会「ももは工房」では、共同営農部会が、有機質肥料を投入し、農薬を極力減らして栽培した米・麦・大豆のみを原料とする、地産地消と安全にこだわった味噌をつくり、地元を始め県内外にも販売しているほか、PTA や地元企業を対象に豆腐・味噌づくり体験教室を開き、交流を図っている。

〔洪水防止、景観の保全〕

ほ場整備の際には、振興会と個人農家のすみ分けを明確にしつつ、現行では営農を継続する小規模農家の農地も合わせて大区画化し、当面は仮畦で区分する利用形態をとるなど、将来的に振興会が地域農業の担い手として効率的に活動を継続し、農地が荒廃しないよう管理できる工夫を行っており、洪水防止や景観保全をはじめ様々な機能の持続的な発揮につながることが期待される。

【令和 2 年度更新】

各種イベント



麦踏み大会の様子



稲刈りや芋掘りの農業体験の様子